

○ 委員長報告

9月定例会本会議で報告された総務企画国体委員長報告は、以下のとおりです。

平成27年9月定例会

総務企画国体委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、第一別館耐震化における免震装置の取替工事についてであります。

このことについて一部の委員から、第一別館耐震化における免震装置取替えのその後の状況はどのようになっているのか。

また、取替えに当たっては、東洋ゴム工業が100%の負担で行うのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県では不正が発覚した当初から免震装置の早期改修を東洋ゴム工業に申し入れているが、同社では現時点で免震装置の製造は全く見通しが立っていない。

このため、第一別館耐震改修工事の設計・監理事務所及び施工業者から、一部規格差があるものの、ブリヂストン社製の免震装置に代替可能との報告があったことから、その方向で検討している。

免震装置の納入には約8カ月を要することから、免震装置の製造を先行させることとし、取り替える免震装置の概算額を東洋ゴム工業で負担することについて確認もとれたことから、近々、施工業者からブリヂストン社へ発注することとしている。

負担の関係については、県に全く落ち度がないことから、すべて東洋ゴム工業の負担で行うとともに、地下の売店、食堂の営業補償も確約させている旨の答弁がありました。

第2点は、アクティブシニア活躍促進検討費についてであります。

このことについて一部の委員から、アメリカのCCRCや日本版CCRCと愛媛型CCRCの違いはどうか。

また、都会の人に来てもらうために、愛媛をどのようにアピールしていくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、アメリカのCCRCは、都市開発的な要素を持ち、

高齢者用の住居を整備し、医療・介護サービスを一体的に提供するもので、日本版CCRCは、国の有識者会議で検討が進められている段階であるが、先進事例として、首都圏の高齢者が、サービス付き高齢者住宅に住み、元気な間は菓子や保存食づくりなどを行い、ケアが必要になると当該施設の中で介護サービスを受ける栃木県の「ゆいま〜る那須」などの事例がある。

愛媛型CCRCは、日本版CCRCより一步踏み込み、移住してきた元気な高齢者に起業・就業していただき、地域の担い手として貢献してもらうスキームを考えている。

首都圏から遠く離れた本県としては、高齢者移住の大きなターゲットは愛媛県出身者であるが、首都圏に住む高齢者の移住ニーズをしっかりと分析し、高齢者に訴求力があるものを洗い出すなど、戦略を練っていききたい旨の答弁がありました。

第3点は、えひめ国体・えひめ大会のボランティアについてであります。

このことについて一部の委員から、えひめ国体におけるボランティアはどれくらいの人数が必要なのか。

また、心のこもったおもてなしをするためには、多くの県民のボランティアによる協力が重要であるが、具体的な取り組み状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、国体・全国障害者スポーツ大会におけるボランティアは、過去の開催県いずれもほぼ同程度の人数を募集しており、本県においても、「運営ボランティア」は、国体の開・閉会式で1,700人、障害者スポーツ大会で3,600人を募集し、各競技会を運営する市町では7,300人を募集している。

また、聴覚障害者に対する手話や筆談等を行う「情報支援ボランティア」は600人、全国障害者スポーツ大会で選手団の介助・誘導等を行う「選手団サポートボランティア」は800人を養成する見込みである。

大会では、多くのボランティアの協力が必要不可欠であり、障害者団体やボランティア団体などへの出前講座等を通じて、ボランティア活動への理解促進に努めるとともに、今後は各種団体にも積極的に働きかけていきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・ 公共施設等総合管理計画
- ・ 選挙権年齢の引下げ
- ・ 愛媛県版「総合戦略」
- ・ 四国への新幹線整備
- ・ 成年種別の選手確保とターゲットエイジの活動状況

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

当委員会に付託されました請願2件については、いずれも願意を満たすことができないとして、不採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。